

日本の近代彫刻は岩手だ

講師：藁谷 収 先生

岩手大学教授
専門分野：美術・彫刻



日時：2019年2月23日（土）

13:30～15:00

会場：放送大学岩手学習センター 4階 大講義室

（盛岡市上田3-18-8 岩手大学図書館4階）

定員：60名（先着順・入場無料・事前の申込が必要です）

対象：一般

岩手の近代彫刻は、長沼守敬（一関市）がイタリア留学の後、東京美術学校初代彫刻科の主任教授を務め、「漁夫」などの名作を制作します。朝倉文夫に師事した堀江尚志（盛岡市）はブロンズやセメントなどの素材感を残した静かな力強い作品を残しています。（県立美術館多数蔵）

戦後、花巻に独居生活を送った光太郎と評論家森口多里の関係で県立の美術学校も設立され、舟越保武は、光太郎、堀江などから影響を受け、日本を代表する彫刻家となって行きます。

岩手出身の彫刻家たちが残した足跡をたどります。